

日時：2015年7月3日(金) 18:30~20:00 曇  
場所：ちどりビル2F 参加者：66名

今回は「情報共有」をテーマとしました。在宅医療・介護においては、情報共有がとりわけ重要な課題として認識されています。



西木所長

たちばな診療所の西木茂所長が、通信情報技術の進歩と、在宅医療・介護における情報共有の課題について経験を基にお話しされました。その中で、たちばな診療所でカナミックを数ヶ月間試用しての実践例、認識した課題について話され、訪問看護ステーションそよかぜの渡部美紀所長、なの花薬局の今富慶子所長からも報告されました。

カナミックは、限定的な対象者同士で情報共有するためのシステムで、見た目や使用した感覚はSNSに似ています。但し、通信情報は保護されており、その他セキュリティ対策を取ることで、より安全に使えます。契約は医療機関となり、インターネット接続環境があれば最低限使用できます。契約料は医療機関のみ発生し、連携事業所はカナミック使用については無料です。その他紹介されたポイントは以下の通りです。

- 必要な情報に絞って掲載されるので、SNSの様に頻回に閲覧する必要は基本的に無い。ターミナルの患者管理中などは比較的頻回な閲覧が必要。
- 写真も載せることができる。
- 情報掲載をメールで伝えることもでき、そのタイミングもすぐ送るか翌朝送るか選択できる。
- 患者、スタッフの写真を登録できる。
- スマートフォンでも使用可能。
- 訪問看護記録をファイルメーカーで作成し、カナミックに載せることが可能(看護の二度手間を省ける)。
- (iPad等訪問先での使用時)音声入力ソフト活用で、タイプしなくても記録を入れ易い。

頻繁に電話対応が必要だった不安の強い患者さんが、訪問看護師同行により少し遠出の外出を楽しんだことで、その後大幅に電話が減った事例について、カナミックを使い写真と合わせて外出の様子を報告し、医師も患者さんの変化のことが良く把握できた事例が紹介されました。その他、カナミックを使用した3人から出された有用性や課題は次の通りです。

医師の指示を口頭よりリアルに、紙媒体よりもリアルタイムに共有できる。これにより医師もよりの確指示を出し易い。皮膚疾患の状態を写真で伝えて相談するなど。

緊急時はやはり電話になる(リアルタイムという点では電話よりは劣る)。

看護記録はそのまま載せられるが、医師の指示は今のところ載せられないので、紙カルテとiPad両方を持ち運ぶ必要は残る。

報酬上求められる情報提供にはならないので書類は別途必要。

例えば血圧など、数値情報を図にすることもでき、状態を共有し易い。

多職種が参加することができ、今までより患者の日常状況を把握し易い。

戸早病院の戸早雅弘院長も参加いただき、カナミックの取り組みについてお話しいただきました。情報共有ツールとしての有用性があり、多職種に生活の様子を書いてもらい、患者の日常を把握できることが期待されると話されました。記録入力、連携事業所のID・パスワード管理に負担がかかることなど、使用しながら課題を整理していく必要を話されました。



戸早院長

### グループディスカッションより

- ・医師同士でも活用し、入院・在宅での連携を深めたい。
- ・朝礼やカンファでも、以前撮られた写真の活用などにより、内容が深まるのではないかと。
- ・動画を記録・共有することでの発展が期待できる(リハなど)。
- ・カナミックの使用については、最低限薬の情報はあった方が良さそう。
- ・記録にタイトルが付けられるので、見ようと思う気になり易い。

### <感想レポートより>

- ・運用の仕方がとても大切だと思った。ある程度のルールを作ることで良いものになる。
- ・機器の取り扱いができるか、ヘルパーさんなど高齢で使えない人もいる。
- ・在宅ケアには医療支援とともに、介護、生活支援の視点が重要である。

